

広報やすぎ

とげなかね



©安来市



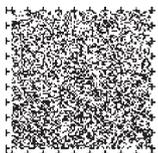
なかうみマラソン全国大会

- 平成26年度幼稚園・保育所(園)入園(所)児募集
- やすぎボランティア団体ネットワーク紹介
- たうんとぴつくす
- ジョーホーの森
- 公共交通を考える
- 市政トピックス
- 昔さんぽ



「第一中学校新校舎完成間近」

安来市の人口と世帯数 平成25年10月31日現在
 男19,715人 (-24) 女21,596人 (+2) 合計41,311人 (-22)
 14,118世帯 (+17)



●高齢者・視覚障がい者向け読上げ装置専用のSPコードを、全ページに掲載。コード横の切り込みは、その位置を示します。

2013. 12 月号

平成25年11月20日発行 Vol.110



実りある農地を次世代に

能義地区から宇賀荘・大塚地区にかけて広がる能義平野では、毎年10月下旬ごろになると、コハクチョウが越冬のためシベリアなどから飛来するようになり、そのいたるところで見られる落穂をついばむ姿は、安来の冬の風物詩となっています。

近年、この能義平野において、農業の生産性向上を目指す施策として、市では大区画ほ場の整備を推進しています。水田を1区画あたり1ヘクタール(約1町歩)規模に大きくし、水はけを良くするための排水改善や、農道整備などを行うものです。これにより、大型機械での作業が可能となり、集落営農組織に農地を集約して組織的に取り組むことで耕作の効率化が図られ、収益性の向上や耕作放棄地の解消などにもつながるものと考えています。

これまでに能義第1地区と宇賀荘第1・2地区は完成し、現在進めている能義第2地区と大塚地区の事業が完了すると、約600ヘクタールにも及ぶ広大なほ場となります。西日本でも例を見ない優良な農業生産体制が整うこととなり、この先進的な取り組みが、本市の農業生産力の向上に大きく貢献するものと期待しています。

その昔、オオクニヌシノミコトが国造りの最初に稲作を始めた地と伝えられる能義平野を、さらなる穀倉地へ。日本の農業は、担い手の高齢化、後継者不足が叫ばれて久しいですが、このほ場整備の取り組みが農業を支える安来の次世代農業への足掛かりの一つとなるよう、引き続き担い手育成や生産基盤の整備などに努め、関係機関などと連携し取り組んでまいります。



大区画ほ場が広がる能義平野。
(平成25年9月撮影)



■ 市長室だより	2	■ たうんとびつくす	12
■ なかうみマラソン全国大会	3	■ 新着図書紹介	15
■ 市政トップピクス	6	■ 「ジョーホーの森」 各種お知らせ	16
■ 平成26年度幼稚園・保育所(園)入園(所)児募集	9	● 「市民カレンダー」(別刷り)	
■ シリーズ公共交通を考える⑤	10	12月の行事・日曜日・祝日診療 など	
■ ボランティア団体ネットワーク紹介	11		

今月の表紙

「50年後に」

未来の自分や友だちへ贈る言葉を込めました。

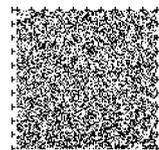
50年後もこの場所で、素敵な大人になって再会しましょうね。

(8ページに関連記事を掲載)

・撮影日 11月8日

・撮影場所 飯島町

(第一中学校新校舎
正面玄関前)



スタート直後の十神大橋



中海護岸をウォーキング

ランナーたちは、小雨が降る中、沿道に駆け付けた市民の応援を受け、晩秋の安来路を駆け抜けました。

美しい情景が広がる中海沿岸を舞台に、第9回ななかうみマラソン全国大会が11月3日、和鋼博物館前を主会場に開催されました。
出場者は、ハーフマラソン・1441人、10キロ・829人、5キロ・731人、2キロ・807人、親子マラソン・ウォーキング・1159人の総勢4967人。

第9回 ななかうみマラソン 全国大会

小雨を吹き飛ばす4967人の快走



ゴール直前の最後の快走



カッパレ!



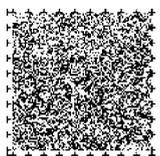
友だちと駆けつける



仲良しファミリーラン



大好きなお父さんと笑顔のゴール





たくさんの方のサポートがランナーの背中を後押し

たくさんのご協力とご声援
ありがとうございます



突然の降雨
厳しいレースに



3回目となった桂さんは5キロに出場。この大会を機にマラソンに開眼され、いまやフルマラソンを完走する実力。ランナーや沿道の人に語りかけながら余裕のゴール。



落語家
安来市ふるさと大使
桂 吉弥さん

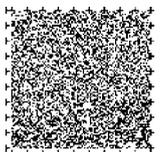
大会を彩ったゲスト・ランナー

沿道の声援に笑顔で応えながら10キロを軽快に走った市橋さん。大会前日の2日には、安来運動公園陸上競技場で開催された陸上教室の講師を務めました。(市陸上競技協会・大会実行委員会主催)



セビリア世界陸上女子マラソン
銀メダリスト 市橋有里さん

教室では、参加した小中学生ら約60人に、ランニングフォームを指導。「腕をしっかり振ることが大切。腕はこぶし1個分開け、腕は(頭上から見て)『ハの字』に振るように」、「視線は正面に向け、前の人の肩を見るイメージで」などとアドバイスしました。また、「夢を持つことが大事。見つけたら目標に向かって頑張って」と激励しました。



大会で見つけた個性派ランナー



みなさんハーフを完走されたつわものです

走り続ける91歳



参加者最高齢で5
キロを完走した宇田春
男さんは、走歴はな
んと70年以上。今で
もジョギングは毎日
欠かさないというラ

ニンング好きで、若いころから数々の大会で優勝し、
マスターズでは日本記録を塗り替えた名選手です。
元気の源は、「もちろん走ること。自らを「三度の飯
よりマラソン好き」と豪快に笑っていました。

輝いた 大会のヒーロー
ハーフ部門トップでゴール



「ハーフマラソントップの選手が帰ってきます。先
頭は安来市の安松さん」。地元ランナーのコールに会
場は大きく沸きました。安松伸晃さんは、一日に平均
20キロを走る市民ランナー。「アップダウンが適度に
ありおもしろい」と、日々の練習も大会コースを愛用し
ています。慣れ親しんだ場所で2位以下を大きく引き
離しての勝利。

「小雨が心

地よく走りやす
かった」と、疲
れを感じさせ
ないさわやか
な笑顔を見せ
ていました。



ハーフ男子30歳代
優勝
安松伸晃さん（島田町）

各部門入賞者
（敬称略）

ハーフ男子29歳以下

- 1位 藤本 翔平 松江市
- 2位 高野 弘之 出雲市
- 3位 笹野 忠則 奥出雲町

ハーフ男子30歳代

- 1位 安松 伸晃 安来市
- 2位 森山 浩司 出雲市
- 3位 矢野 秀明 松江市

ハーフ男子40歳代

- 1位 田中 賢一 松江市
- 2位 仲西 宏 安来市
- 3位 今岡 俊和 岡山市

ハーフ男子50歳代

- 1位 戸崎 修爾 松江市
- 2位 綿貫 知之 山口県
- 3位 川島 建司 出雲市

ハーフ男子60歳以上

- 1位 林 武男 松江市
- 2位 余村 篤雄 松江市
- 3位 青木 豊一 東京都

ハーフ女子35歳以下

- 1位 高橋さやか 米子市
- 2位 來間 香里 出雲市
- 3位 日笠 由紀 松江市

ハーフ女子36歳～49歳

- 1位 古家 雅恵 滋賀県
- 2位 塩見 志保 米子市
- 3位 井上 麻美 米子市

ハーフ女子50歳以上

- 1位 永海 昌子 米子市
- 2位 斧谷 陽子 鳥取市
- 3位 矢田 瑞穂 松江市

10キロ男子45歳以下

- 1位 村上 貴亮 松江市
- 2位 高津 府制 山口県
- 3位 坂根 智也 安来市

10キロ男子46歳以上

- 1位 藤原 栄司 雲南市
- 2位 中澤 隆 米子市
- 3位 井上 光弘 松江市

10キロ女子45歳以下

- 1位 加藤 崇子 米子市
- 2位 大國沙輝子 大田市
- 3位 島田 美和 益田市

10キロ女子46歳以上

- 1位 畦崎 仁美 岡山市
- 2位 青木ひとみ 益田市
- 3位 桑本 陽子 大山町

5キロ男子中学生

- 1位 森 海斗 米子市
- 2位 富田 崇弘 安来市
- 3位 富田 晃弘 安来市

5キロ男子45歳以下

- 1位 川上 大輔 琴浦町
- 2位 徳安 裕輔 鳥取市
- 3位 川本 乃輔 出雲市

5キロ男子46歳以上

- 1位 門脇真次郎 松江市

2位 大高一彰 神奈川県

- 3位 入江 秀憲 米子市

5キロ女子中学生

- 1位 大庭こころ 米子市
- 2位 畑 日和 大田市
- 3位 福山 瑞希 米子市

5キロ女子45歳以下

- 1位 高木 明美 出雲市
- 2位 山根 伸子 松江市
- 3位 山根 早紀 出雲市

5キロ女子46歳以上

- 1位 赤堀 明美 岡山市
- 2位 魚海 博美 岡山市
- 3位 長恒 京子 岡山市

2キロ男子小学生低学年

- 1位 長崎 暖大 安来市
- 2位 池谷 大輝 松江市
- 3位 折戸 巧磨 米子市

2キロ男子小学生高学年

- 1位 磯上麻沙也 北栄町
- 2位 山根 孝介 米子市
- 3位 仲佐 和浩 安来市

2キロ女子小学生低学年

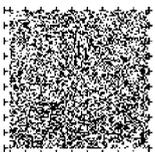
- 1位 今井 凪 安来市
- 2位 日野山咲希 邑南町
- 3位 板持 紗香 米子市

2キロ女子小学生高学年

- 1位 中林 亜早 雲南市
- 2位 矢下 美月 安来市
- 3位 宇田川奈都寧 安来市

入賞されたみなさん、おめでとうございます！

■問い合わせ…なかうみマラソン全国大会事務局（地域振興課内）TEL 23-3500



市政トピックス



いち早い治療開始で救命につなげます

ドクターカーの運用を始めました

鳥取大学医学部附属病院と協定締結



鳥取大学医学部附属病院に導入された「ドクターカー」。

安来市消防本部では、救急体制の充実・強化を図るため10月7日、鳥取大学医学部附属病院とドクターカーの運用に関する

協定を締結し、同28日から運用を開始しました。ドクターカーは、緊急薬剤や医療機器を装備し、医師や看護師が救急現場へ急行する緊急自動車および、そのシステムのことです。

この度の協定は、本年5月にドクターカーの運用を開始した同病院と連携し、119番通報の内容に重症と疑われるキードードなどがあつた場合、消防本部が同病院の救命救急センターにドクターカーの出動を要請し

ます。そして、市内に設けられたドッキングポイント（合流地点）で、消防署の救急車と合流し、その場で治療を開始しながら傷病者を搬送します。現在は、月・火・木曜日の日中時間帯のみの運

行ですが、いち早く医師が駆けつけて、救急現場で即座に初期診療が開始できることは、救命率の向上や後遺症の軽減に大きな効果が期待できます。

原子力防災・安全対策に取り組んでいます

●原子力防災訓練を実施

中国電力株式会社鳥根原子力発電所の事故を想定した原子力防災訓練を11月5日・10日、鳥根原発から30^キ圏の鳥根・鳥取両県と6市の合同で実

施しました。

▽行政機関等による初動対応訓練（11月5日）

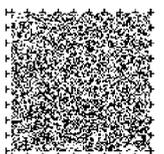
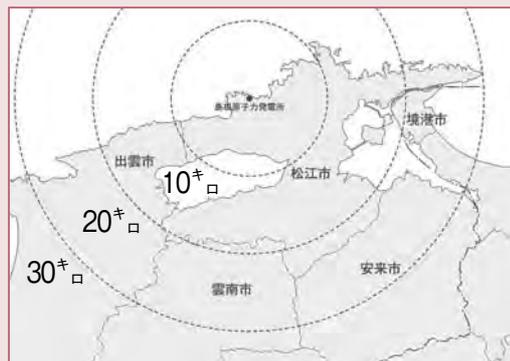
中国電力から事故発生 の通報を受け訓練開始。市では、災害対策本部を設置して運営訓練を行

改選後初の安来市議会臨時会が開会 新しい議会の構成が決まりました

市議会臨時会が11月8日に開かれ、新しい議会の構成が決まりました。
▽議長：金山 満輝氏
▽副議長：田中 武夫氏

▽監査委員（議会選出）
…中島 隆夫氏
※詳しくは、11月20日発行の議会だより（臨時号）をご覧ください。

い、県や安来警察署などの防災関係機関との通信連絡による情報収集や伝達、会議の開催、住民への広報など、事故直後の初動対応を確認しました。また、市内を巡回して空気中の放射線量を測定する訓練や、30^キ圏内の学校と通信連絡などの訓練を行いました。





(右)市の災害対策本部会議の様子。
 (中)テレビ会議システムのモニター。
 (左)能義交流センターに可搬型のモニタリングポスト(放射線測定器)を設置し、放射線量を測定。



(上)一時集結所の南小学校に向かう大塚町自主防災組織の皆さん。
 (中)警察車両の先導で避難先へ移動。
 (下)放射線量の測定を受ける参加者。



▽住民避難訓練など

(11月10日)

大塚町自主防災組織の参加で行いました。島根原発の事故の進展により避難指示が出されると、住民約50人が一時集結所の南小学校に集まり、バスで伯太中央交流センターに避難しました。避難先では、体に付着した放射線量を測定するスクリーニングや自衛隊による除染活動の実演、放射線の知識などを学ぶ学習会などがあり、参加者は、原子力防災への理解を深めました。

●原子力発電所の安全対策に関する取り組み

中国電力が島根原発の再稼働に向け、安全審査を申請することが予想される中、島根原発から30キロ圏内の安来・出雲・雲南の3市は、昨年に続き原発の安全対策に関する要望活動を行いました。10月18日は中国電力に対し、立地自治体並みの原子力安全協定の締結を要求。10月17日には島根県知事に対し、立地自治体並みの安全協定締結に向けた取り組みへの支援や、原発計画等の事前了



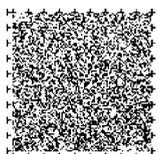
(上)資源エネルギー庁で上田長官に要望書を手渡す近藤市長。
 (下)島根県庁で溝口知事に要望書を提出し、要望の趣旨を伝える近藤市長。



解や措置要求の際に、3市の意見を反映させることなどを要望しました。

その結果、島根県と3市の間で、県が島根原発に関する重要な判断や回答をする際は3市に説明し、3市の意見などを付して回答するなどの覚書を交わし、中国電力からの回答は、継続して協議したいとするものでした。また、新たに国への要望活動を行い、11月6

日、資源エネルギー庁の上田長官と経済産業省の立岡事務次官に対し、原発の安全対策に周辺自治体の意向が反映できる制度の創設や、電力事業者と周辺自治体が安全協定を締結できるよう支援することなどを要望しました。市民の安全・安心を確保するため、引き続き圏域自治体と連携し働き掛けていきます。





市内小・中学校では最後の耐震化事業
3学期から授業開始予定

まもなく完成、一中新校舎

老朽化に伴う第一中学校の校舎建て替え工事は順調に進み、11月中にはしゅん工、3学期からは新校舎での授業を開始する予定です。

新校舎の完成により、市内すべての小・中学校で、校舎の耐震化が図られることとなります。

●新校舎の瓦に

生徒がメッセージ

11月7日・8日、新校舎正面玄関の屋根に使用する瓦に、生徒が「未来の自分たちへ向けたメッセージ」を書き入れました。

工事現場で働く人たちが、完成間近の新校舎に生徒の思いを込めようと



約94メートルの直線廊下。



正面玄関奥の吹き抜け空間。光や風などの自然を利用し、学校の一体感を創出します。



企画。「今元気?」「一生勉強しましょう」などと、未来の自分に向けてメッセージが書かれた瓦は、生徒代表の5人から工事担当者の手に託され屋根に葺かれました。

●現校舎お別れ見学会を開催します(第一中学校)

新校舎への引っ越しに伴い、平成26年1月から取り壊しが始まる現校舎の見学会を行います。(事前申込不要)
▽日時：12月15日(日)10時～15時
▽問い合わせ：第一中学校 (TEL 22・2250)

工場を増設し航空機産業に挑戦

秦精工株式会社と

企業立地に関する覚書を調印

秦精工株式会社(本社黒井田町)が、島根県の

や金型用押出しピンの製造を主に手掛けています。

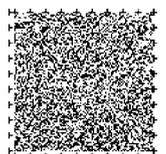
立地計画認定を受けて工場を増設することとなり10月23日、島根県庁で認定書の交付式および、同社・島根県・安来市の3者が、立地計画の円滑な実施に向け協力することなどを確認する覚書の調印式が行われました。

今回の立地計画は、今後の成長分野である航空機産業への本格参入を図るため、最新型の大型設備の導入や現工場の隣接地に新工場を増設して設備増強を図ること、さらには操業後3年間で5人を新規雇用することが盛り込まれています。



調印式の様子。(写真左から、溝口知事、秦精工株式会社の秦康人社長、近藤市長)

安来市では、本市の産業振興を図るため、設備投資や雇用拡大の支援策として、今年度新たに助成制度(企業立地促進奨励金)を創設しており、今回の立地計画に対して適用します。



入園(所)児募集



募集期間 12月2日(月)～12月13日(金)

幼稚園

対象児童 5歳児…平成20年4月2日～平成21年4月1日生
4歳児…平成21年4月2日～平成22年4月1日生
3歳児…平成22年4月2日～平成23年4月1日生

●問い合わせ
教育総務課
Tel23-3310

募集予定数など

幼稚園名(問い合わせ)	3歳児	4歳児	5歳児
安来幼稚園 (Tel22-2129)	40人(2学級)	70人(2学級)	70人(2学級)
認定こども園 荒島 荒島幼稚園 (Tel28-8510)	5人	15人	15人
※「認定こども園 荒島」は、荒島幼稚園と荒島保育所が一体となって、就学前の子どもに幼児教育・保育を提供します。			
島田幼稚園 (Tel22-5325)	各園とも55人		
宇賀荘幼稚園 (Tel22-2118)			
能義幼稚園 (Tel22-2244)			
広瀬幼稚園 (Tel32-2387)			

申し込み 希望する幼稚園に申込書を提出してください。

※現在入園中の園児についても、申し込みが必要です。

※年齢別の申込者が4人未満、各園全体で10人未満の場合は、ほかの園などへの調整を行います。

※申込者が募集予定数を超える場合は、調整を行います。(調整がつかないときは、現在の入園者を除く新規入園希望者による抽選を行う場合があります)

保育時間 8時30分～14時

※預かり保育(14時以降の保育)の時間は幼稚園により異なります。詳しくは、各幼稚園までお問い合わせください。

保育料 年間96,000円(月額8,000円)

※預かり保育の利用時間に応じて預かり保育料を加算します。

申込書の設置場所

各幼稚園、市民課④窓口(安来庁舎)、広瀬・伯太各地域センター(広瀬・伯太各庁舎)、教育総務課(伯太庁舎)

保育所(園)

対象児童・定員など 市内在住で、保護者が仕事や病気などのため、家庭で保育できない児童。

●問い合わせ
子ども未来課
Tel23-3214

生後57日～就学前児童

やすぎ保育園(60人)	みゆき保育園(120人)
ふたば保育園(150人)	ひろせ保育園(120人)
安来保育所(80人)	あゆみ保育園(35人)
安田保育所(80人)	赤江保育所(70人)
赤屋保育所(25人)	城谷保育所(90人)
比田愛育園(45人)	母里保育所(60人)
	井尻保育所(40人)
	広瀬保育所(75人)
	布部保育所(40人)
	※赤江・城谷保育所は、指定管理者に管理運営を委託。

開所(園)時間 7時～19時

(あゆみ保育園は
7時30分～19時30分)

※延長保育は18時～19時
(あゆみ保育園は、
18時30分～19時30分)

1歳～就学前の児童

認定子ども園 荒島 荒島保育所(60人)
飯梨保育所(60人)
大塚保育所(60人)
切川保育所(60人)
※「認定こども園 荒島」は、荒島保育所と荒島幼稚園が一体となって就学前の子どもに幼児教育・保育を提供します。

保育料 入所児童の年齢と保護者の前年分の税額などで決定します。

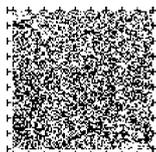
※延長保育の利用時間に応じて延長保育料が別途かかります。

3歳～就学前の児童

山佐児童館 (30人)

申し込みおよび申込書の設置場所 子ども未来課(広瀬保健センター)、希望する保育所(園)

- ・児童館、市民課④窓口(安来庁舎)、広瀬・伯太各地域センター(広瀬・伯太各庁舎)
- ※現在入所(園)中の児童についても、申し込みが必要です。



タクシーも大切な公共交通です



「公共交通機関」とは、誰でも自由に利用できる交通機関のことで、市内では、市が運営する広域生活バス（イエローバス）、民間が運営する路線バス、鉄道、タクシーなどがあります。

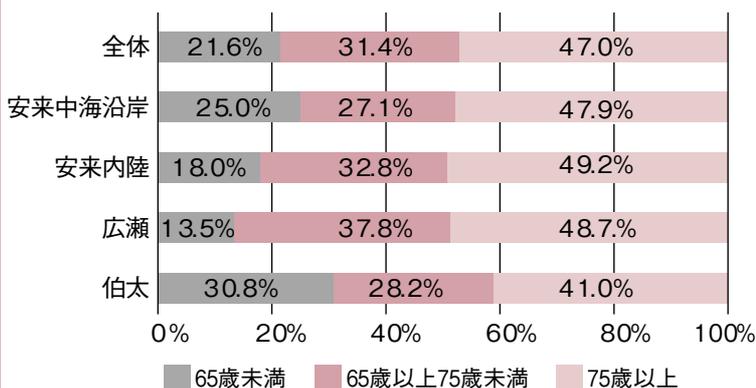
今年度実施した「公共交通に関する住民アンケート」の結果では、普段利用する交通機関について、約7人に1人（14.7%）がタクシーと回答しています。

タクシーは、路線バスなどとは異なり、時間の制約を受けない上に移動の自由度が高く、利用者個人のニーズに柔軟に対応できる乗り物です。そして、私たちの生活や活動を支える、地域に密着した大切な公共交通機関の一つです。

■高齢者の利用割合が高いタクシー

タクシーを利用する人の約8割を65歳以上が占めています。自宅から目的地への移動が容易であるタクシーは、高齢者にとって重要な交通手段となっています。

地域別タクシー利用者の年齢構成（住民アンケートより）



※地域区分は右図参照。（安来地域は、市街化区域が集中し、バスや鉄道など交通の便がよい「安来中海沿岸地域」と、その他の「安来内陸地域」を分けて表示しています）

▼住民アンケートでは、次のような声も寄せられました

山間部に住んでおり、たまに市街地に買い物にでます。帰りは、重たい荷物を持って歩くのが大変なため、店からタクシー営業所の前までバスで行き、そこからタクシーを使って自宅まで帰ります。タクシーを利用する分、費用が掛かるため、もう少しどうにかできないかと思っています。



■市内のタクシー営業所分布



市内には、タクシー事業者が6社（7営業所）あります。

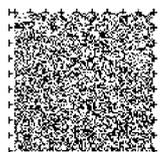
- ・車両台数…計35台
- ・稼働率 …67.9%（平成24年度）

運行に余裕があり、利用者のニーズに応え易い状況です。

山間部などを中心に、交通が不便な地域などにおいて、市民の皆さんの移動を確保するためには、バスとタクシーを組み合わせる効率的な運行を図ることも一つの方法です。現在、安来市ではアンケート調査の結果を踏まえて、地域ごとの需要に応じた公共交通システムの検討を進めています。

日常の移動や公共交通について、ご意見をお寄せください。

■ 問い合わせ…市民参画課 TEL 23 - 3069 FAX 23 - 3155





やすぎ ボランティア団体 ネットワーク

皆さんに利活用していただくため、
ネットワークに加盟する団体をシリーズ
で紹介しています。

●問い合わせ
やすぎボランティア団体ネットワーク
事務局（市民参画課内） TEL 23-3067

加盟団体を紹介します v.8

FILE 15

豊かな感性を育てる

わくわく子ども大会

特色ある地域の自然や

人との体験的な関わりを
通して、感動や達成感を
味わい、心豊かな感性と
意欲あふれる子どもをは
ぐくむため活動していま
す。また、体験活動を親
子で行うことできずなを
深め、地域を愛する心を
醸成します。

●主な活動内容

▽安来港・なぎさ公園清
掃活動（6月第2日曜日）
毎年、クリーンアップ
安来デーに合わせて、な
ぎさ公園周辺の清掃活動
を行っています。
▽親子野外炊飯活動（7月）
なぎさ公園でテントを
張り、十神山の散策やカ
レー作り、スイカ割りな
ど野外活動を楽しみます。

▽手づくり教室

小学生を対象に開催。
（ペットボトルロケット・
陶芸・ちまきづくりなど）



清掃活動

●一言ごあいさつ

中海や安来の美しい景
観を大切にするととも
に、子どもたちが楽しめ
る活動を行っています。

●問い合わせ

十神交流センター
TEL 23・0755

FILE 16

読書から世界を広げる

安来親子読書 サークル

子どもたちの健全育成
を目的に、読書を通じて
本を読む楽しさや大切
さ、言葉のおもしろさ、

（絵本などの）色彩の美
しさなどを伝えていま
す。

●主な活動内容

▽本の読み聞かせ
小学校や保育所・幼稚
園に向き、絵本の読み
聞かせを行っています。
▽人形劇・紙芝居の公演
自作した指人形を使い、
絵本のお話を基にした人



本の読み聞かせ

形劇や紙芝居などの公演
を行っています。

▽七夕会（7月）・
クリスマス会（12月）

絵本の読み聞かせ・人
形劇・ゲームなど。
※クリスマス会
日時：12月22日（日）14時～
場所：安来中央交流センター

▽本に関する講演会

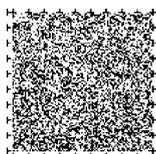
大人に読書の良さを伝
える活動を行っています。
（今年は8月に開催）

●一言ごあいさつ

絵本の読み聞かせなど
の活動に関心のある人は
ご連絡ください。

●問い合わせ

やすぎボランティア
団体ネットワー
ク事務局（市民
参画課内）
TEL 23・3067



だうん とぴっくす



秋の夜長に清水散策

1400年以上の歴史を誇る古刹・清水寺で10月19日から27日までのうち4日間、参道や境内をあんどんなどで照らす「清水寺灯（あかり）参道」が行われ、参拝者は昼間とは違った幻想的な世界を楽しみました。

夕暮れ時、参道や境内には広瀬和紙や藍染めを使用した大小250個のあんどんが点灯。さらに、本堂や三重塔、山門をライトアップして闇夜をほのかに照らす光の空間を演出しました。本堂では、影絵と音楽を融合したミニコンサート、三重塔付近の清凌亭では出雲鍛造燭台などの展示もあり、訪れた人は、提灯を手に境内を散策し、光・お寺・自然が調和した不思議な空間に浸りました。

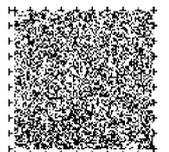
（右）提灯を手に参道
（下）境内に並べられた高さ50センチのあんどん



スサノオに熱狂

bjリーグのプロバスケットボールチーム島根スサノオマジックの公式戦が10月20日、安来市民体育館で開催され、観戦に訪れた1,148人が、プロ選手の激しく迫力のあるプレーを楽しみました。

京都ハンナリーズを迎えたこの試合は、中海・宍道湖・大山圏域市長会（だんだんサミット）の主催で開催。序盤からスサノオが攻守で圧倒しますが、次第に点差を詰められ、終了間際のシュートで劇的な逆転負け。勝利には手が届きませんでしたが、一進一退の好ゲームに、詰めかけた観客は選手の一つ一つのプレーに大きな歓声を上げていました。



開館10周年・伯太を学ぶ



※郷土の歴史に精通している藤岡大拙氏の話とあって会場は満員に。

生涯学習と文化活動の拠点として、母里交流センターと図書室などの複合施設である、はくた文化学習館で10月26日、開館10周年を記念した講演会が行われ、市内外から集まった約140人が、伯太地域の神話や出雲弁について学びました。

始めに、歴史学者で荒神谷博物館館長の藤岡大拙氏が、ユーモアを交え古事記や出雲国風土記などで神話と密接につながる伯太の地を紹介。母里の地名は、オオクニヌシノミコトが長江山に立ち、「この国（出雲国）だけは私が守る」と宣言したことが由来で、古来より人びとに愛されている場所であることなどを話しました。続いて、テレビ番組などに出演する白石勢津子さんと、舞台などで活躍する清原真さんによる出雲弁講座もあり、終始笑いの絶えない講演に、来場者は楽しみながらふるさと・伯太について理解を深めました。

古墳のまちを巡る

古代出雲王陵の丘健康ウォークが10月13日、同王陵の丘公園駐車場を主会場に開催され、約500人の参加者が、荒島地区の歴史や田園風景を楽しみながら、心地良い汗を流しました。

荒島地区は、国指定史跡の古墳群が集まる古墳の宝庫。コースに塩津神社古墳や仲仙寺古墳群などを巡る古墳コース（7キロ）が設けられるなど、歩きながら地域の特色に触れることができます。秋晴れとなったこの日は、王陵の丘山頂から望む中海や島根半島などの景色が絶好で、足を止めては眺望を楽しむ人も多く見られました。また、完歩後は、振る舞われたおにぎりや豚汁などに舌鼓を打ち、楽しい一日を満喫しました。



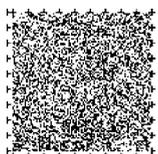
荒島地区と地域間交流を行う東藤島地区（福井県福井市）からも23人が参加しました。

あんなこと、こんなこと

地域のお話をお届けします。

皆さまからの情報も、

お待ちしております。



秘書課 TEL 23-3010





森林教室で木の実を観察する児童

身近な森林で自然を体験

上吉田町にある広大な国有林をフィールドに10月18日、「ふれあい森林教室」が開催され、南小学校5年生15人が、森の持つ役割や自然の大切さについて学びました。

この催しは、地元の吉田寿会と鳥根森林管理署が毎年開催しており今年で24回目。教室では、記念植樹をはじめ、シイタケの植菌体験などが行われました。森の中で開催した森林教室では、「鳥の声」、「いいにおいのするもの」「チクチクするもの」など9つの項目の書かれたモノを探すビンゴゲームが行われ、児童たちは五感を研ぎ澄ませて自然と向き合い、豊かな森林を体感していました。

生涯スポーツの普及に貢献

地域などでスポーツの健全な普及発展に貢献し、スポーツ振興に大きな功績があったとして、渡部良さん（安来町）が、平成25年度生涯スポーツ功労者表彰（文部科学大臣表彰）を受賞されました。

渡部さんは、平成12年から社日地区の総合型地域スポーツクラブの運営に関わり、スポーツ教室の開催やシニア健康チェックを導入するなど、生涯を通じて誰もがスポーツに親しめる環境づくりに尽力されています。また、社日小学校校庭の芝生化事業では主導的役割を果たし、姉妹都市の韓国密陽市とのスポーツ交流に道筋を付けるなど、地域のスポーツ振興のけん引役となっています。



受賞報告のため近藤市長を訪れた渡部さん（左）

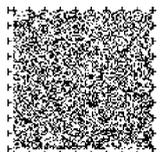


採取したキノコは
専門家が鑑定

山佐ダムで秋のお宝探し

野山が紅葉に染まり始めた山佐ダム体験交流施設「やまびこ」周辺で10月20日、恒例の「きのこ狩りの集い」が行われ、参加者はキノコ狩りを通して山林の散策を楽しみました。

多くのキノコが自生する山佐ダム周辺で参加者が約2時間のキノコ狩りを終えると、会場には大きささまざま、色とりどりのキノコが勢ぞろい。中には、コウタケなどの高級タケや、水色で貴重なソライロタケもありました。会場では、キノコ汁やコウタケご飯などが販売され、参加者はキノコ談義に花を咲かせながら秋の恵みを満喫していました。



新着図書紹介



安来市立図書館

Tel 22-2574

昼田とハッコウ 山崎ナオコーラ
 お伊勢ものがたり 梶よう子
 偷盗の夜 澤田ふじ子
 十一月に死んだ悪魔 愛川晶
 スナックちどり よしもとばなな
 とっぴんぱらりの風太郎

万城目学

ユニコーン

原田マハ

〈お子さんのほん〉

ほんこちゃんポン! 乾栄里子
 でんしゃにのろう 斉藤洋
 うまれたよ! アリジゴク 安田守

ひろせ図書室

Tel 32-4455

秘密 川嶋澄乃
 水木しげるの不思議草子

水木しげる

親が子に教える算数・絵を描か
 せて考えさせよう・ 光部武信
 12歳までが成功のカギ「頑張
 れる子」の育て方 和田秀樹

〈お子さんのほん〉

うさぎラジオ 島村木綿子
 アナベルとふしぎなけいと
 ジョン・クラッセン

●そのほかの新着図書情報は…<http://www.city.yasugi.shimane.jp/tosyo/>

はくた図書室

Tel 37-0050

僕らのニュースルーム革命 堀潤
 秀吉家臣団の内幕 滝沢弘康
 ネコライオン 岩合光昭
 長い猫と不思議な家族 依布サラサ
 今日も日暮里 片岡鶴太郎
 代官山コールドケース 佐々木譲
 検察側の罪人 雫井脩介

〈お子さんのほん〉

笑顔の架け橋 藤本美郷
 ひみつの花便り 田村理江
 とことんトマトン 高山栄子

臨時休館・閉館時刻変更のお知らせ

- ひろせ図書室 蔵書点検のため、臨時休館となります。
 - はくた図書室 平日の閉館時刻を19時から18時とします。
- 期間…12月11日(水)～12月14日(土) 期間…12月1日(日)～平成26年3月31日(月)



宝くじ助成金で活性化

●郷土の伝統文化の継承に活用

中心市街地の活性化を目的に活動する「やすぎのまち再生協議会」(足立三樹夫会長)が、宝くじの助成金を活用した(財)自治総合センターのコミュニティ助成事業により、鑿太鼓1張と和太鼓10張などを購入しました。

今後、保育園や幼稚園、小学校などに貸し出し、月の輪神事をはじめとする伝統文化の継承に役立てていきます。

●落語の醍醐味に浸る

宝くじ文化公演「三遊亭円楽・春風亭昇太二人会」が10月23日、安来市民会館で開催されました。

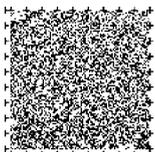
人気のテレビ番組「笑点」でもおなじみの落語家の出演とあって、チケットは早くから完売で、出演者の豊かで軽妙な語り口が、満員となった会場を笑いの渦に包んでいました。



和太鼓に触れる安来幼稚園の園児。



(上) 春風亭昇太さん
(左) 三遊亭円楽さん



昔さんぽ



あら エッサくん 「カエルの面に小便？」の巻

石田行生



「未明」の由来

安田小学校から東に約1^キ進むと、「未明」という珍しい地名があります。ここがなぜ未明と呼ばれるようになったのか。それには、こんな言い伝えが残っています。

およそ680年前の鎌倉時代、幕府を倒して新しい政治をしようと考えた後醍醐天皇は、幕府に捕らえられ、京都から隠岐島に流されることになりました。

そのころ、隠岐に渡るには、大きな港があった安来津(港)から船で向かう方法がありました。天皇の一行は、安来津を目指し、途中、現在の米子から伯太町安田関に入ると、近くの神社に泊まることにしました。一行は、家来や警護などを含めると100人を超える数です。その日は、地元だけでなく周辺からも、人びとがコメや野菜、山の幸を持ち寄って集まり、おもてなしをしました。

次の日の早朝、天皇の一行は暗いうちから出発し、しばらくして現在の未明集落を通ったとき、東の空が暗闇からうっすらと明るくなってきました。ほのぼのと夜が明けようとする光景を見た天皇は、「未明なり(ほのかに夜が明けた)」と言葉にされるのでした。

これを知った村人たちは、目的を果たせず隠岐に向かうことになった天皇の気持ちを思い、この場所を「未明」と呼ぶことにしたのです。



やすぎ再発見

後醍醐天皇の草履とはし

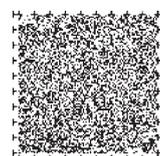
後醍醐天皇が実際に使用されたものとされる草履とはしが、伯太町東母里在住の田中幸一さんの家に今も大切に保存されています。

いずれも、昔さんぽで紹介した、後醍醐天皇が安田の地で一夜を過ごされたときのゆかりの品。田中さんの先祖が食事と新しい草履を献上した際、天皇がお礼として、それまで履いていた草履と、食事の際に使った箸を贈ったと伝えられています。

※一般公開はしていません。



草履は長さ26^{センチ}、幅9^{センチ}。はしは竹製で、長さ23^{センチ}、太さは8^{ミリ}と細く仕上げられています。



- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています●
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください●
- 自治会宛の発送等につきましては、市民参画課(TEL23-3067)までご連絡ください●

